

陶芸選趣会



レッツ青少年会



生涯学習センター きらめき講座で行われている陶器の講座は人気があり、再受講できません。もっと腕を磨きたいと修了者同士が呼びかけ合って講座サークルを開設することになりました。立ち上げてちょうど1年、タマゴからヒナになったばかりの若い会です。

主宰者はいません。口を多く出した人が世話役になり、陶芸室・陶芸窯の予約から釉薬の準備まで行います。腕の立つ先輩をアドバイザーとおだて、それを快く引き受ける。こんな素敵な仲間が25人集まりました。

自分を名工と信じ大作に挑む人、自分用の生活用品を作る人、電動ろくろに振り回されている人、なぜか毎回同じ器を作る人、一日土と格闘しても無作品で帰る人、名作と迷作が区別できない人(?)、講座を口座と錯覚している人(手より口がよく動く)、それらを人間観察している人などさまざま、ここでは上手や下手はありません。

モットーは、もっとよい作品を、立派な施設をもっと使わないと、毎週月曜日の作陶日はいつも盛況です。陶芸室は窓越しに見えるので、遠慮なく扉を叩いてください。

近い将来、この会から茨木市美術展で入賞作品が連発?なんていうことがあったらうれしいです。

連絡先 伊藤 彰彦 649-3650
鈴木 卓 649-0845

私たちは西陵中学校区レッツ青少年会です。昭和60年(1985年)に結成され、中高生から社会人まで約20人が多くの笑顔と出会うために活動しています。

活動の中心は沢池・西小学校のジュニアリーダー研修会です。年5回の研修会を企画し、運営しています。私たちのスタンスは近所のお兄さん、お姉さん。6年生の子どもたちのリーダーとして、スタッフとして、共に汗を流したり、遊んだり、悩んだり、キャンプしたり。特別なことは必要ありません。一生懸命するだけです。

自分たちで企画し、参加募集をしてキャンプをすることにも力を入れています。自分たちの企画が形になっていくのは楽しいし、頑張ると相手が喜んでくれることはもちろん、達成感が得られたり仲間の存在を大切に思えるようになります。最初は何も分からないけれど、体験する中でできることが増えてきます。教えたり、教えてもらったりする中で信頼関係も生まれてきます。

ほかにも運動会のお手伝いや、ふるさと祭りの地域行事にも参加しています。幅広い年齢層の人たちと仲良くなれることが楽しいのです。

こんな活動を認めていただいて、内閣官房長官表彰や教育功労団体として大阪府や茨木市から表彰していただきました。

普段の生活でもクラブ活動でも得られない経験がたくさんできます!中高生のみなさん!一緒に活動してみませんか。

連絡先 秋山 雅典 625-9327
ホームページ <http://www.hcn.zaq.ne.jp/kakurega/>

市民インタビュー この人に会いたくて



第30回

茨木市民の中からいきいき生活の達人を探し出し、紹介するコーナーです。話から出てくるその豊かな人生に、あなたもきっと勇気づけられることでしょう。

手作りおもちゃで世代間交流をする
なかがみ みつこ
中上 美津子さん

大阪府の老人大学講座、シルバーアドバイザー養成講座(世代間交流)を修了。その後、地域でさまざまな活動を通して世代間交流をするとともに、自らの生涯学習としてもおもちゃ作りを実践中。

おもちゃ作りとの出会いはいつ頃ですか。

平成11年(1999年)にシルバーアドバイザー養成講座(世代間交流)を受講したことがきっかけで、手作りおもちゃの楽しさを知りました。もともと私は何でも自分で作るのが好きで、洋服などもリフォームして楽しんでいました。

どんな所で活動されているのですか。

その頃、安威公民館の運営委員をしていたので、シルバーアドバイザー養成講座で習っていたおもちゃを見てもらい、「文化展で子どもたちと作って遊ぶことができないでしょうか」と提案し、教え始めたのが最初で、その後は毎年文化展で活動しています。また、小学校のクラブや中学校の選択教科でも子どもたちとおもちゃ(リサイクル工作)を作っています。

どのようなおもちゃが出来るのですか。

クリスマスのリースやツリー、おひな様、プーメラン、トンボ、カエル、ヘビ、トリなどさまざまです。材料は、木の実や木片、牛乳パックやフィルムケース、ペーパータオルのしんなどです。子どもたちにはおもちゃの作り方は教えますが、あまり手を出さないようにしています。色や形、大きさなどにこだわらず、自分の好きなように作ってもらいます。

子どもたちが作るおもちゃはとても個性的です。子どもは大人とは違う発想をするので、私もヒントをもらうことがしばしばです。大切なことは、既成にこだわらずに自分でいろいろと想像してみることだと思います。

子どもたちとの交流で、日頃感じておられることは何でしょう。

今の子どもたちは、テレビゲームなどの高価なおもちゃが好きだと聞きますが、学校で子どもたちに手作りおもちゃを教えていると、初めは興味がなさそうにしている、作り始めると夢中になります。出来上がったときの子どもたちの顔は輝いています。その顔を見ていると私もうれしくなります。中には、ハサミを使えない子も

いますが、「こうして切るのよ」と切り方を教えるとだんだんとうまく切れるようになってきます。ハサミやカッターナイフを使うときは、手に持ってうろろしないことを始めに約束しますが、聞かない子には本気で怒るんですよ。そうしたら最後には聞いてくれます。後日、子どもたちが書いてくれた手紙や色紙を読んでは温かい気持ちに浸っています。道で会ったら声をかけてくれたらうれしいなどと思ったりもしています。

おもちゃ作りを通しての世代間交流で、何か伝えたいことがありますか。

子どもたちが自分で作る楽しさを知り、大人になり親になった時、手作りおもちゃを通してさまざまな人とふれ合い、人の大切さ、物の大切さを伝えていってくれたらと思います。

今後はどのような活動を考えておられますか。

子どもたちから高齢者まで、多くの人と接していけたらいいなと思っています。私は、学校などのおもちゃ作りのほか、茨木市の乳幼児学級のボランティアもしています。また、朝、道に立って子どもたちの登校を見送っています。「おはよう」と声をかけてくれる子どもたち、元気に学校へ向かう子どもたちにパワーをもらっています。仲間とみそづくりをしたり、地区の福祉委員として高齢の方の食事(イキイキサロン)のお世話をしたりすることも楽しみです。やってみたいことは、子どもたちだけでなく、大人と子どもがいっしょになって手作りおもちゃを楽しむ場をつくることです。

これからも、自分を見つめながら健康に気を付けて楽しく活動ができればと思っています。



木片で作ったカタツムリとトリ



クリスマスツリーとリース